



第242号

創立35周年特集号

令和5年3月30日発行

社会福祉法人 一誠福祉会

〒441-8066 豊橋市王ヶ崎町字上原1番地145
TEL (0532) 48-5111・FAX (0532) 48-5112



優良職員表彰 滝川理事長を囲んで受賞者と記念撮影

目 次

祝★35周年	創立35周年を迎えて	滝川 一 亮	2
社会福祉法人一誠福祉会理事長	社会福祉法人一誠福祉会創立35周年を祝して	愛知県知事 大村 秀章	3
祝 辞	豊橋市長 浅井 由崇		4
祝 辞	新城市長 下江 洋行		5
生誕三十五周年を迎えて	社会福祉法人一誠福祉会理事 岩崎 章		6
諸行無常	社会福祉法人一誠福祉会監事 佐藤 敏和		6
インクルーシブな社会を目指して	社会福祉法人一誠福祉会評議員 高橋 豊彦		8
特別テーマ「一杯のコーヒーから」	社会福祉法人一誠福祉会後援会豊橋会長 井上 賢照		9
社会福祉法人一誠福祉会	美光ハイム茶々倶楽部と私		9
創立35周年をお祝いして	茶々倶楽部豊橋講師 西口伊都代		10
ケアハウス美光ハイム入居者	河合 鋆		10
メモリアル	法人創立三十五周年新しき展開		11
社会福祉法人一誠福祉会本部長	後藤 英夫		12
ノーマライゼーション	老人保健施設ベルヴーハイツ施設長 近藤 利彦		13
35年の絆	社会福祉法人一誠福祉会経理部長 小島 寛晶		13
コロナ禍のなかで	タキカワ整形外科クリニック事務次長 木藤 真介		13
法人創立35周年記念式典を開催して	社会福祉法人一誠福祉会総務部長 青山 勉		13
一誠福祉会小史(平成30年～令和4年)	14		19
一誠福祉会の歌／編集後記	20		20

祝 35周年

創立35周年を迎えて

社会福祉法人一誠福祉会 理事長 滝川 一 亮



この度、社会福祉法人一誠福祉会は創立35周年を迎え、3月15日に創立記念式典も無事執り行うことができました。これもひとえに皆様のご支援のおかげと心より御礼申し上げます。

昭和60年頃、当時、滝川病院の院長として働いていた当法人の前理事長、故滝川一興が自宅に居場所をなくしたお年寄りが増えてきている問題に気づき、そうした方々が最後まで幸せな日常生活を送れる施設を作りたいという考えに至りました。そして、デンマークのバンク・ミケルセンが提唱した

「ノーマライゼーション」

の具現化を法人の経営理念として昭和62年7月28日、当法人を設立しました。滝川病院（現タキカワ整形外科クリニック）の増改築のために貯蓄していた資金と、両親、自身からの多額の寄付を原資とし、銀行から借り入れをして資金を調達し、そして、東大野球部の大先輩にあたる、のちの財務大臣、故藤井裕久先生のお力添えで国有地の払い下げを受けることができ、現在の作楽荘の土地を確保しました。当時は特別養護老人ホームについて理解している人はほとんどお

らず、住環境の悪化を心配する周辺住民の方々からの反対に遭い、病院の診察が終わった後に連日連夜の説明会を開くなど、対応には大変苦慮したと聞いております。そんな艱難辛苦の末、当法人最初の特別養護老人ホームである作楽荘が開設されたのは昭和63年4月8日で、「作楽」という名前は王ヶ崎町の建設用地にあった山桜にちなんで命名されました。これには「楽しみを作る」というアクティブな意味も込められています。これを皮切りに、当法人は高齢化の時流に乗って、徐々に規模を拡大し、現在、職員数は約340名、3グループ、8拠点、8施設、18事業所を擁するまでになりました。社会的なニ

ーズに合致していたのはもちろんですが、関係者の皆様からの多大なるご支援と、よりよい介護サービスを提供しようと使命感到燃える職員の努力によって育まれ、今日までくることができました。間違いありません。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今年も作楽荘玄関前の桜が春霞の中、静かに美しい花を咲かせました。古今東西、日本人に愛でられ、大切にされてきた桜のように皆様に安らぎを与え、愛される法人となるべく、職員一同、一丸となって努力精進してまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

祝 35周年

社会福祉法人一誠福祉会
創立35周年を祝して

愛知県知事 大村 秀章



この度、社会福祉法人一誠福祉会が創立35周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

社会福祉法人一誠福祉会におかれましては、昭和62年7月の法人設立以来、「ノーマライゼーションの具現化」を理念として、特別養護老人ホームやケアハウス、老人保健施設といった高齢者施設を開設し、現在では、特別養護老人ホーム「作楽荘」を始め計23施設・事業所を運営されるなど、東三河地域を中

心として多くの事業に取り組まれ、35年の長きに渡って、本県の社会福祉の向上に多大な貢献をしてこられました。

これもひとえに、滝川理事長をはじめ職員の皆様方が法人の理念に基づき、利用者の皆様や地域福祉のニーズに応えながら施設を運営してこられた成果であり、深く敬意と感謝の意を表します。とりわけ介護現場の最前線で働かれている職員の皆様方におかれましては、ここ数年に渡る新

型コロナウイルス感染症の感染防止対策において、並々ならぬ御苦労と御尽力があったものと存じます。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、本県では、「高齢者の自立と自己実現を地域で支える福祉保健医療」を理念として、2021年度から2023年度までを計画期間とする「第8期愛知県高齢者福祉保健医療計画」を策定し、介護、医療、予防、生活支援サービス、住まいが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの推進に積極的に取り組んでいるところであります。本計画は高齢

者の方が健康で生きがいをもち、安心して暮らせる社会の実現を目指すものであり、貴法人の理念と共通するものであると考えております。

今後も、引き続き、本県の取組へのお力添えをお願いしますとともに、高齢者福祉のさらなる向上のため、一層の御活躍をいただくことを大いに期待しております。

最後になりますが、貴法人の益々の御発展と、職員の皆様方の御健康と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 35周年

祝 辞

豊橋市長 浅井 由崇



社会福祉法人一誠福祉会創立35周年おめでとうございます。貴会が長年にわたり社会福祉事業に尽力されたことは誠に意義深く、心から敬意を表すとともにお慶びを申し上げます。

貴会は「ノーマライゼーションの具現化」の理念を掲げ創立され、昭和63年4月に特別養護老人ホーム「作楽荘」を開設されて以来、ケアハウス、老人保健施設、地域密着型特別養護老人ホーム及びグループホームを開設されるなど、

様々な福祉サービスを総合的に提供してこられました。その中で、多くの高齢者とその家族が安心して、楽しく暮らしを営むことのできる施設運営に努められるとともに、デイサービスセンターを始めとして、一人ひとりに寄り添った在宅介護サービスの運営にも力を注がれました。こうした貴会の活動は、本市の高齢者福祉の充実、向上に多大なご貢献いただいたものと、改めて歴代の理事長を始め職員の皆様方のたゆみないご尽

力に心より感謝申し上げます。

本市の高齢化率は26%を超え、市民の4人に1人が高齢者となる時代に突入しました。今後も高齢者人口や高齢者世帯は増加すると見込まれており、それに伴い要介護認定者や認知症者数の増加も予測されることから、貴会に対する市民の期待はますます高まっていくものと考えられます。

本市を含む東三河8市町村では、将来にわたり安定した介護保険基盤を築くため、介護保険者を東三河広域連合に統合し、効率的な介護保険事業の運営を行うとともに、

に、それぞれの地域の実情に合わせた施策を展開しています。また、本市においても「みんなで支え合い、笑顔で健やかに暮らせるまち」を目指し、高齢者が住み慣れた地域で支え合い、活躍しながら自分らしい暮らしを送ることができるよう環境づくりに取り組んでおります。貴会におかれましては今後も地域福祉の拠点として、その機能を十分に発揮され、引き続きご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に一誠福祉会が、今後ますます発展されますことを祈念いたします。お祝いの言葉といたします。

祝 35 周年

祝 辞

新城市長 下江 洋行



このたびは、社会福祉法人一誠福祉会が創立35周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴会は、昭和63年に特別養護老人ホーム「作楽荘」を豊橋市内に開所されて以来、「ノーマライゼーションの具現化」を理念とされる介護を実践され、長年にわたって東三河の地域福祉の発展に寄与されてこられました。本市におきましては平成11年4月に老人福祉複合施設として特別養護老人ホーム「麗楽荘」とケ

アハウス「和光ハイム」を開設いただき、平成17年4月に地域密着型サービスとして「グループホームうらら」を併設されました。そして、平成24年3月には「グループホームきらら」を、翌年4月には地域密着型特別養護老人ホーム「奇楽荘（キララソウ）」を開設いただきました。地域のお年寄りの皆様が住み慣れた地域で生活でき、家族との交流も十分に計りながら良質・多機能なサービスをご提供いただいております。

これも偏に、滝川理事長をはじめ役職員の皆様方のたゆみないご尽力の賜物であり、深く敬意を表します。

さて、本市は令和4年の高齢化率が36・8%と全国的に見ても高い水準となっております。人口減少や少子高齢化が進む中、高齢者が長年慣れ親しんだ家庭や地域の中で暮らし続けるためには、互いに支え合い、安心して生活できる社会の形成が極めて重要です。

本市では、第8期新城市高齢者福祉計画を掲げ、『私らしさと安心を皆で支え合う「山の湊」しんしろ』を基本理念に「高齢者が元気に社会参

加できるまち」「住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」「安心して暮らし続けられるまち」を基本目標とし、各種施策を進めています。

記念すべき創立35周年を契機として、関係する皆様が一丸となって、地域福祉ニーズに寄り添う支援をはじめとした社会的使命の達成に向け、さらなる発展を遂げられますようご期待申し上げます。

結びに、社会福祉法人一誠福祉会のますますのご発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



祝 35 周年

生誕三十五周年を迎えて

社会福祉法人一誠福祉会

理事 岩崎 章



(福)一誠福祉会が、創立三十五周年を迎えられたことを心より感謝いたします。

東三河に於いて、介護施設を豊橋市・新城市へと展開したことは、地域住民にとっては誠にありがたいと思います。

滝川家は、新城市出澤の旧家であり、歴史的にも地方の民政に多くの治績をあげてきました。初代理事長である三十三代当主である一美先生は、本当にゆつたりとした方

で永年にわたり御先祖、および郷土に関する研究を着々と進められ、多大な資料を残されました。

その環境で育てられた故滝川一興前理事長は、東京大学卒業後、米国・欧州でも医学のみならず様々な体験をされてきました。そして帰国後、日本にも高齢化社会がくると予測され、介護施設は人にとって山里より今までと変化のない日常生活が街中ですごせることが大切と話されていきました。

しかし、当法人の理念である「ノーマライゼーション」の考え方を推し進め、一歩ずつ前進し地域社会の為にも頑張りましょう。

祝 35 周年

諸行無常

社会福祉法人一誠福祉会

監事 佐藤 敏和

35年ですか！早いものです。一興前理事長と施設用地を探していたのが、ついこの間の様な気がします。気が付けば設立当初の役員で残っているのは、枯れ木も山の賑わい”の僕だけになりました。作楽荘だけだった施設も8拠点、職員数も400名近くになったと思います。ゴルフ好きの一興

先生と遊び好きの僕！
妙に馬が合い、いつ頃から「草履取り」と錯覚しそうになりました。

お祝に施設の事を書くべきですが僕には一興先生との思い出が強烈に残っており祝文にはなりません。悪しからず！

今から40年程前まだ施設が出来る前、2人でニューヨーク・マンハッタンに行きました。僕が英語が全くダメなのを分かっているのにブロードウェイで1人ぼっちにさせられました。どのようにしてホテルに帰ったかは今でも謎です。やたらに人を信じてはいけないう学びました。

25年程前には今大変なウクライナの西側にある、

ハンガリーを訪問しました。その時パスポートを無くした時用に国際免許を取ってこいと言われ取得しました。そしてブダペスト（ハンガリーの首都）でレンタカーを借り

て、一緒に行った末仲先生（一興先生の先輩）が運転をし、一興先生がナビで出発しました。が、余りにも下手で10分で生きて帰れないと思い、外車を運転した事も無く、ましてや海外で右側通行の運転経験も無い僕が、「大先輩のお二人に運転とナビをしてもらっては申し訳ない」と話し、ドライバ―を交替しました。すると「佐藤君運転上手じゃないか」とおだてられ、それから一週間、僕

が全部ハンドルを握りました。元々、国際免許取ってこい！と言う話もおかしい？し、変なおだてにのるものではない、と学びました。

9年程前には四国・高知へ2人で研修に行きました。大型台風がアベックで来て、2人だけでホテルに缶詰状態。一興先生にはすごいオーラと威圧感があり、多くの人が10分位で酸欠になるとの事。そんな中、「高知に来たら地酒『酔鯨』（鯨も酔う酒）を飲むぞ！」朝から一日中、酒、々、々。大先生と5日間！よくぞ無事に帰ってこれたと自画自賛！高知では自分の身は自分で守れと学びました。何やら悪口ばかり言っ

ているようですが、2017年に「蓮の池」に遊びに行かれて早6年。いまだに一興先生の話がありこちらで出る！やはり大した先生だったな、と思います。何回も喧嘩し何度も絶交（子どものケンカ？）と言われましたが、43年もの長きにわたりおつき合いをさせていただきました。僕にとっては自慢であり誇りでもあります。その先生が心血を注いで創られた一誠福祉会が今後も多くの職員の方々、役員のお力をお借りして益々ご発展されることをお祈りいたします。35周年おめでとうございます。趣旨不明の乱文お許し下さい。

No.3

ドボン

(50才)



ハンガリーに行った時のパスポートより。
黄昏突入、六文銭を用意しています。

No.2

ステップ

(40才)



ニューヨークに行った時のパスポートより。
人生を謳歌しております。

No.1

ホップ

(25才)



今はジジイですが、僕にも若い時がありました。
初めて外国台北(台湾)に行った時のパスポートより。

祝 35 周年

インクルーシブな
社会を目指して

― 次なる未来を創る

ノーマライゼーション―

社会福祉法人一誠福祉会

評議員 高橋 豊彦

社会福祉法人一誠福祉会様の基本的な考え
方の中に、ノーマライゼーションという言葉があります。私自身、一誠福祉会様との永い関係性の中で、何度となく耳にした言葉であり、共感できる考え方の一つです。

厚生労働省が提唱しているノーマライゼーションとは、「障害のある人が障害のない人と

同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指す」という理念です。

さらに、「障害がある人を変える」という意味合いではなく、彼らがあるのままで健常者とともに生活ができるように「周りが変わる」という視点も持ち合わせています。

また、2022年に教育や医療の現場での日本の現状について「法律や政策が、障害者に対するパターンリズムのため、条約が求める障害の人権モデルと調和していない」というような懸念に対して、

スイスのジュネーブで開催された国連障害者権利委員会において、勧告がなされているという現実もあります。

社会の多様性が叫ばれるなか、「いつも身近なところに、様々な立場の人たちが居る…」というインクルーシブな状態が、多様な価値観の醸成につながるという考え方を大切にす

る人たちも増えてきました。
設立当初より、「ノーマライゼーション」の理念を大切にされている一誠福祉会様に、ようやく、周りが追い付いてきたのかもしれない。



祝 35周年

特別テーマ

一杯のコーヒーから

社会福祉法人一誠福祉会

後援会豊橋

会長 井上 賢照



昔の歌にありました
「一杯のコーヒーから」
が今回の最大ポイントで
す。わかりやすいテーマ
ですが内容は誠に興味あ
るものです。

私のポイントは、午後
の3時のおやつと、真白
い本格的なコーヒーカッ
プで提供されるコーヒー。
デイケアをご利用されて
いる方や、お世話する各
施設のスタッフの人と、

和気あいあいで、テレビ
を見ながら、おいしいお
やつとその一杯のコーヒ
ーで、しばらくの談話す
る時間を持ちたいという
のが、私の意向です。毎
日のコーヒータイムにお
いしいコーヒーが飲めれ
ば、その日1日が楽しく
すごせるでしょう。



後援会では、4月より
新しい作戦で、まづベル
グビューに、最新型の大型
4Kテレビを導入し、カ
ラオケセットも、ビデオ
セットも、最新式の超一

流品を導入し、デイケア
人数の倍増をはかります。

祝 35周年

美光ハイム

茶々俱樂部と私

茶々俱樂部豊橋

講師 西口 伊都代

美光ハイムの入居者
の方達にお茶の指導を
始めてから、もう三十
年は経ったのでしやう
か。最初は師匠の出口
先生の助手としてお手
伝いしました。

美光ハイムの初期の
頃は全員の方が参加さ
れ、入居者自身で歴史
を作っていくという意
気込みのようなものを
感じました。その後一人

で担当になり現在に至
っています。

以前嗜んでいた方や
初めての方など参加さ
れています。稽古は月
に一回ですが、回数を
重ねると皆様点前が出
来るようになり、続け
ていくことの大切さを
改めて教わりました。又
人生の先輩として色々
な方達にお会いするこ
とも楽しかったです。

ある方の「年を取る
ことは坂道ではなく階
段です」との言葉を頂
き、私も〇〇歳になり
実感しています。

コロナ禍で皆様にお
会い出来ませんがお元
気でしょうか。

三十五周年おめでとう
ございます。益々のご発展
をお祈り申し上げます。



令和四年両祖忌 (於 臨濟寺 二段目左から四人目)

祝
35周年

創立35周年を

お祝いして

ケアハウス美光ハイム

入居者 河合 銘

社会福祉法人一誠福祉
会様の35周年、誠におめ

でとうございます。

私は平成12年7月1日
よりこちらでお世話にな
っております。もうかれ
これ22年、月日を重ねま
した。

70代で入居し、施設で
の行事やクラブに参加し
たり、また自由に外出し
たりと、のんびりと楽し
く暮らすことができてい
たと思います。隣接して
いる特養作楽荘の中庭で
畑を耕させていただき、
できた作物をハイムの皆
さんや職員さんに配った
りしてとても喜ばれ、そ
れが励みとなり、また畑
を耕したものでした。

畑仕事の終わったあ
と、部屋で飲むビールは

格別においしく、明日へ
の活力となっていました。

3年前にコロナ感染症
が流行ってから外に出
られず、畑仕事も出来ず、
あれだけおいしかったビ
ールも進まなくなってい
まいました。

年令も90半ばとなり、
体力も衰え、歩行もおぼ
つかなくなっていました。
それでもリハビリ
をして頑張っています。
職員の皆さんにはいつも
優しく接していただき、
「かなえさん」と気軽に
呼びかけてくれます。と
ても感謝しております。

最後に一誠福祉会の
益々のご発展を祈念いた

します。

※写真は2016年の10
月、美光のバスハイク行事に
参加し、伊良湖ビューホテル
で食事をつたあと、恋路ヶ
浜でのスナップです(左か
ら2番目が筆者です)。



メモリアル

法人創立三十五周年

新しき展開

社会福祉法人一誠福祉社会

本部長 後藤 英夫



1987年7月28日、

一誠福祉社会は社会福祉法人の法人格を取得し、東三河の福祉の担い手として「Normalization」の理念を掲げて動き始めました。

翌年四月には、法人第一号施設を豊橋の街中、

王ヶ崎町に特別養護老人ホーム作楽荘を建設し運営を行っていきます。その後は老健BVH、特養麗楽荘、ケアハウス、ユニット型特養、グループホーム等々次々と形態の違う福祉施設を開設し、今日の地域福祉に貢献しています。向後は老朽化し

つつある施設を改修して新たな展開を見据えつつも、早まった2040年問題を考慮しながら対応が急がれます。



本年度迎えた法人創立三十五周年は、順風満帆に社歴を重ねてきたのではなく、多くの方々の汗と涙と苦労とたゆまぬ努力が、一誠福祉社会を支え成長させていただきました。その事を最大限感謝しつつも、その社歴が重しにならないよう、より今まで以上に研鑽を重ね、

個々の力を結集して新たな事業展開を行ってまいります。

ノーマライゼーション

老人保健施設ベルヴューハイツ
施設長 近藤 利彦

「社会福祉法人一誠福祉会」は開設から、満35年を迎えました。ベルヴューハイツの一員として早3年過ぎ、この節目の時に一緒に祝うことができ、心より嬉しく思っています。

新型コロナウイルスにより施設でクラスター8月、10月発生しました。全職員一丸となり、マニュアルを参考に決断と実行で被害を最小限に抑えこんだ。これにより職員の更なる成長に繋がると確信します。

施設長室の大きな額縁に、創設者滝川一興医学博士の履歴書が書かれています。国内はもとより、海外10か国以上の主要都市で、その国の言語で講演され、尚且つスポーツ、社会活動、医学教育に大活躍されました。

当法人の「ノーマライゼーションの実現を目指して」の理念のもと、ご入所の方、通所の方々地域の皆様に必要とされる施設であり続けられるように努力して参ります。



35 年の絆

社会福祉法人一誠福祉会
 経理部長 小島 寛晶



法人創立35周年おめでとうございます。つづく時の経つのは早いものだ。自分の年齢と共に重ねてしまう今日この頃です。ひとりで35年と言うのは簡単ですが、やはりその歴史の重みは簡単には言い尽くせない苦勞や喜びがあったことでしょう。

こんなデータがあります。10年後の会社生存率は6・3%。つまり、会社の10年生存率は1割にも満たないという数字です。完璧な統計か多少の誤差はさておき、それだけ会社を継続して

いく事は至難の業だといふのが分かると思えます。会社法人が今日とも明日とも存在するのが当たり前前の世界ではないのです。35年というのはいわば奇跡に近いこと。その中で私たちは高齢者の為、地域の為に従事していることは大いに誇りであり、胸を張って自慢出来ることだと思っております。

今後とも当法人が50年、60年と継続していく為、不易流行の精神で、時代とともに変えるべきではないものを変えていくべきものの攻守のバランスを熟慮し実践していくことが激動の時代を生き抜く術ではないでしょうか。

更なる高み目指して法人と共に歩み続けていきましよう。



コロナ禍のなかで

タキカワ整形外科クリニック
 事務次長 木藤 真介



この度、一誠福祉会法人創立35周年を迎えられ心よりお祝い申し上げます。私の勤務するタキカワ整形外科クリニックは平成21年に滝川病院から転換して14年になります。実に月日の経つのが早く感

じられます。

さて、新型コロナウイルスが日本で確認されてから3年が過ぎました。介護の現場においては常に感染防止に注意し職員の方々は職場、職場外においても神経をすり減らした3年だったと思います。

5月には季節性インフルエンザと同等の扱いになり規制も緩くなります。コロナ期間中に高校生活を終えてしまった子を持つ親としてはコロナ前の日常に戻りつつあることは喜ばしいことです。

しかしながら医療、介護共にまだ気が抜けない状況が続いています。今後もタキカワ整形外科クリニックは同一グループとして協力し合い、両法人共に更なる発展を遂げることが出来るよう精進してまいります。

法人創立35周年

記念式典を開催して

社会福祉法人一誠福祉会 総務部長 青山 勉



令和5年3月15日、ホテルアソシア豊橋で法人創立35周年式典を開催いたしました。

コロナ禍のため、開式の是非を何度も検討した結果、抗原検査を事前に行うなど、予防対策を徹底したうえで決行を決断いたしました。

今回は3年間、コロナ感染症と戦ってきた職員を慰労するため、仕事が終わってから参加できる、夜7時からの開式とし、来賓の参加も制限させていただきました。式典時間が少ないため、次第の中身を決めるのに苦労をいたしました。

開式の辞、理事長挨拶

講演、祝辞、そして祝賀会、その宴席の中で、優良職員表彰、和太鼓「志多ら」の演奏、そして職員による豪華景品が当たる抽選会が行われ、最後に中締め、そして参加者全員の記念撮影と、目まぐるしくプログラムは進行していきました。

それでも3年ぶりの宴席、皆さん久しぶりの交流に大満足。大きな笑い声があちこちから聞こえてきました。人と語らうことがこんなに楽しいことなのかと、新鮮な感覚でした。

理事長の講演では、当法

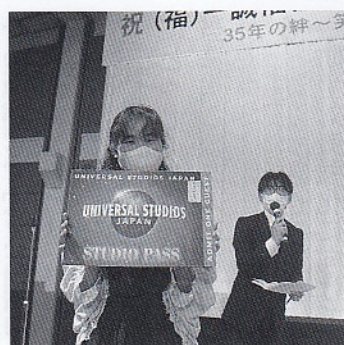
人35年の歴史を、スクリーンを通して振り返りました。そして未来へ向けての左記の3つの提言も述べられ、職員一丸となって頑張ろうと発声、志気は高まりました。

・ 周囲環境の変化に即応して事業戦略を立案し、実施していく。

・ ご利用者様がよりよろこんで頂けるサービスを提供していく。

・ 職員が誇りを持って働ける職場を作っていく。

式典は185人の参加があり、滞りなく終了いたしました。35年間着実に前進できたのも、皆様のご理解とご支援があればこそと、改めて感謝と御礼を申し上げる次第です。



USJペアチケットゲット!



和太鼓「志多ら」演舞



滝川一亮理事長挨拶

The 35th
ANNIVERSARY
一誠福祉会

小史

平成三十年

2018

1 「法人創立30周年」記念事業の開催

平成30年3月30日、ホテルアソシア豊橋において開催致しました。

式典は、理事長・実行委員長挨拶から来賓祝辞、感謝状贈呈、優良職員表彰と、厳粛な中にも華やぎをもつて進行了ました。

記念講演では、東大整形外科名誉教授中村先生の「口コモ予防と転倒予防」についての絶妙な講義が好評を博しました。

そして祝宴に入ると、「豊丘高校和太鼓部」の若さ一杯の笑顔・躍動感溢れる演奏と演舞、ピアノ・クラリネットのカルテット「ミューズ」による優雅な演奏が、祝いの会場の雰囲気大いに盛り上げてくれました。

お陰様で、創立以来30年間の感謝を、未来へとつなぐにふさわしい記念行事になりました。



講演修了後 中村先生を囲み

2 介護報酬改定への対応

介護報酬は3年ごとに見直しがありますが、今年度は医療報酬との同時改定の重要な時期です。

地域包括ケアシステムの推進、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、多様な人材の確保と生産性の向上、介護サービス適正化等が骨子となっており、当法人もこれを踏まえ運営を展開しました。

3 キャリアパス制度の確立と適正な運用

本年度事業計画の大きな柱として取り組み、処遇改善にも寄与しました。

幹部職員及び職員代表による月1回の内部研修の中で、給与システムの抜本的改革とともに、給与規程ほか諸規程の改定と新規規程の作成、職能要件書・人事考課シートなどツールの作成、職員の新格付けと新システムへの給与載せ替え等々、数々の改革を実行して本制度を確立しました。

今後は適正かつ有効的な運用に取り組みます。

4 後藤本部長と小島財經部長の就任

本部機能の強化・充実の目標に向けて、作楽荘荘長との兼務で、本部長として後藤英夫が4月1日より就任しました。本人事と同時に、麗楽荘荘長の小島寛晶が財經部長を兼任します。



後藤本部長



小島財經部長

5 給食委託業者の変更

11月1日をもって、給食委託業者が(株)グリーンハウスに替わりました。プロポーザル方式による複数の応募業者の中から、「おいしい」「安全」へのこだわりと、食への熱意が決め手となりました。

「食事」はご利用者の皆様にとって大きな楽しみで、当法人との二人三脚で、心のかよった給食を目指します。

6 防犯対策の強化

防犯対策強化に向けて豊橋市に補助金を申請していましたが、1年越しで整備許可が下り、この3月に作楽荘・倶楽荘・ス楽荘・ベルビューハイツに防犯カメラ・モニターレコーダー・人感センサーが設置されました。

これを機に、防犯に対する取り組みをさらに強化するとともに職員の意識も高めて、ご利用者や地域の皆様により一層安心して過ごして頂ける施設づくりを心がけます。

7 RAN伴 2018 in 新城に GHきらが参加

これまで認知症の人との接点が多かった地域の方々と、認知症の人及びそのご家族、そして医療福祉関係者が一緒にタスキを繋いで日本全国を縦断し、伴に暮らすことを実感するイベントです。

3月23日の新城市富岡コースに参加しました。穂積市長も参加され、総勢200名のオレンジのTシャツを着た集団は圧巻で、PR活動に貢献することができました。

8 東三河広域連合が新保険者としてスタート

この4月に、豊橋・新城・豊川・蒲郡・田原の各市と設楽町・東栄町・豊根村の計8市町村の介護保険者が統合し、東三河広域連合として新たな保険者となりました。事務の効率化及び介護保険事業の安定的な運営と、それを支える財源基盤の強化が図られます。

9 台風24号の被害を防災強化の機会として

豊橋市や新城市を直撃した24号台風の被害は、当法人の各施設にも及びました。とくに長期にわたる停電への対応には苦慮しました。一方、これが今後の防災を見直す良い機会ともなりました。

10 芦沢元作楽荘荘長の訃報

後藤本部長の追悼文(下段)をもち、コメントとさせて頂きます。

【追悼】

芦沢さんを偲ぶ



本部長 後藤 英夫

訃報三日後、十一月五日の祭壇に飾られていた遺影は、今思い出しても目頭が熱くなる病室で横たわる姿ではなく、私のよく知る温厚で笑顔の素敵な「あしざわ」さんでした。

特養作楽荘・美光ハイムの施設長、そして評議員の重職を歴任され、一誠福祉社会に多大な尽力をされました。常に「やるしかないんだよ」「夢を持って仕事をしようよ」と声をかけながら。…行き詰まった時はいつもこの言葉を思い出します。心よりご冥福をお祈りいたします。

The 35th ANNIVERSARY
一誠福祉社会 小史
令和元年 2019

1 新体制による法人運営

令和元年6月19日の定時評議員会におきまして、理事・監事任期満了に伴う役員の見直しについて審議され、左記のとおり理事が承認されました。

また、6月22日、新執行部で理事会が開催され、滝川一亮理事長が選定されました。新体制による運営が始まりました。

理事長	滝川 一 亮
理 事	滝川 一 成
理 事	岩崎 章
理 事	後藤 英夫
理 事	青山 勉
理 事	小島 寛晶
監 事	佐藤 敏和
監 事	佐藤 征子

2 新元号は「令和」

「平成」が幕を閉じ、新たな元号「令和」が5月よりスタートしました。

皇位継承前の新元号公表は憲政史上初めてであり、「大化」(六四五年)から数えて二百四十八番目の元号となりました。



新しい時代の幕開け

出典は万葉集の「梅花の歌」の序文「初春の令して氣淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」からの引用、国書からは初めてで、さらに記者会見では、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められている」と述べられています。

3 豊橋市天皇陛下ご即位記

念奉祝式典に参加

5月5日、豊橋市公会堂に

て「天皇陛下ご即位記念奉祝式典」が行われ、老健ベルヴューハイツに今年入職した介護士の金子ひなたさんが、新たな年号「令和」への夢を語るべく若者代表として抱負を語りました。後日功績により後援会豊橋から感謝状と金一封が贈呈されました。



「令和にける夢」を語る

4 老健ベルヴューハイツ 滝川一成施設長の就任

滝川病院の院長を辞任後、



平成21年より5年間初代近田施設長の後任として勤務した老健ベルヴューハイツに再度施設長としてこの5月より就任しました。当法人及び愛知県老健協会の理事としても長きにわたり務めています。

5 浴衣で打ち水

東京オリンピック開催1年前の7月24日、全国一斉に打ち水をして気温1度下げ「浴衣姿で納涼打ち水大作戦」に参加し、和光ハイム玄関前で麗楽荘・和光ハイムの皆さんと打ち水を行いました。当日は装賀きもの学院による着付け教室も開催され、浴衣姿で打ち水を行いました。水を撒いた瞬間、会場一体が涼しい空気に包まれました。

6 新城市長が表敬訪問

9月19日、穂積亮次新城市長が麗楽荘を訪れ、百歳以上の入所者をお祝いして頂きました。麗楽荘では六名の方がみえられ、最高齢は百五歳です。ご家族の方も参加され、市長を囲んで記念撮影をいたしました。



新城市長が表敬訪問

7 文化祭売上金を台風19号被災地に義援金

11月3日、法人各拠点で文化祭を開催。作楽荘・美光ハイムの文化祭ではバザー、作品展示、抹茶提供、喫茶店模擬店、餅投げ等の催しが行われ、ご家族の方、地域の方が多く来荘されました。その中のバザーについて、その売上金の全額を台風19号で被災地に義援金として贈呈いたしました。

8 ベルヴューハイツふれあい音楽会の開催

11月17日、ベルヴューハイツにおいて一誠福祉会後援会豊橋主催で「ふれあい音

楽会」を開催いたしました。「宗次ホール」からピアノ・チェロ・バイオリンの3名をお招きし、全9曲を奏でて頂きました。演奏の合間にトークやクイズが盛り込まれ、来場された皆様が笑顔で楽しんでいらつしました。

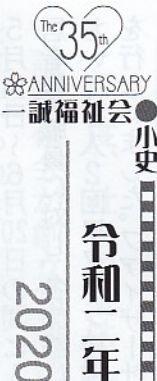
9 木の花会日帰り旅行

平成四年から二十年以上続いている木の花会（職員福利厚生会）の大切なイベントの職員一泊旅行の他に、今年は「日帰り旅行」を希望する意見が非常に多かったことを受け、初の試みとして企画されました。今まで諸事情により欠席していた職員も日帰りならと多く参加され、一泊旅行と合わせ昨年以上の参加がありました。

10 消費税が10%に

10月1日より、消費税が2%増税されました。不足する社会保障費等の財源を確保するためです。しかし、同時に軽減税率として以前と同じ8%が適用される対象物も定義されてきたので、なかなか理解しにくい仕組

みとなっています。法人経営としても経費が圧迫されることから今後の経営のかじ取りが重要になってきます。



2020年を振り返る



1 世界的パンデミック

昨年の12月、中国の武漢市から始まった新型コロナウイルスの猛威が未だに止まらない。日本でも第3波が押し寄せ、各地の病院・福祉施設でクラスターが発生し、災害として大阪・北海道で認定され、自衛隊の看護師が派遣される始末。当然対岸の火事ではない当法人も感染委員会等で情報収集、そして感染対策を練り徹底し、水際で防ぐのに必死である。

そのため面会・外出は中止、ボランティア・実習の受け入れ制限、行事の縮小等でご利用者・ご家族そして地域の皆様に大変ご迷惑をおかけして

いる。それでもエールを送って下さる方もいて、大変感謝の至りである。

2 初釜茶会の開催

1月下旬から2月上旬にかけて、作楽荘・BVH・麗楽荘の3施設で毎年恒例の宗偏吉田流初釜茶会が開催された。しかし、その後の施設内茶々研修、許状授与式、新人茶々研修は新型コロナウイルス感染拡大で開催の目途がたらず。平成8年から始まった事業がストップ。非常に残念である。

3 人事異動

○近藤 利彦氏
6月より老人保健施設ベルヴェールハイツ施設長兼医師として就任

○相山由里子氏

4月より特別養護老人ホーム麗楽荘副荘長兼ケアハウス和光ハイム相談員として就任

4 職員制服の刷新

5月より各職種の制服が変わった。昨年度、制服見直し委員会検討を重ね、つと披露目。評判も上々。

5 聖火の火は消えず

東京2020オリンピック

クが延期。それに伴い聖火リレーのランナーとして選出されていた、作楽荘職員の清川哲央氏も残念ながら今年には走ることが出来ず。来年こそはオリンピックが開催され、その雄姿を見たい。

6 リモート会議の開催

コロナ禍で「3密」を防ぐため、さらに今後、あらたな会議のあり方を模索するため、本部会議を極力リモート会議で行う事にした。当初は画像が突然消えたり、声が聞こえなかったりとトラブルが続いたが、今ではしっかりとリモート会議が板に付いてきた。

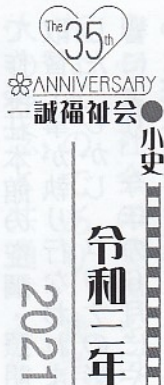
7 緊急包括支援金交付

最大限の感染症対策を継続しつつ、必要なサービスを提供する体制の構築のため補助金が愛知県より交付された。当法人も感染拡大予防の対策をさらに徹底するため物品の購入・修繕の実施等を行い交付金を受給。

8 中期・長期計画会議の開催

10月22日、今年度の事業計画の目玉である会議が作楽荘で開催され、選抜された

職員により、法人の未来について語り合われた。



2021年の活動を振り返る

1 新体制による法人運営

理事・監事・評議員の任期満了に伴い、左記のとおり役員が選定され、新体制による運営が始まりました。

【理事長】

滝川 一光

【理事】

滝川 一光・岩崎 章

後藤 英夫・青山 勉

小島 寛晶・近藤 利彦

【監事】

佐藤 敏和・佐藤 征子

※任期約2年

【評議員】

近田 祥子・高橋 豊彦

夏目 工・波田野きくよ

平石 雅康・松井 章泰

三宅 唯夫 ※任期約4年

2 コロナの脅威は今年も

一昨年の12月、中国の武漢

市から始まった新型コロナウイルスの猛威が今年も世界中を席巻しました。特にデルタ株の感染拡大により、8月20日には過去最多の1日25,851人の新規感染者数を記録しました。3回の「緊急事態宣言」の発出、さらに「まん延防止等重点措置」(まん防)なるものも発出されました。医療崩壊も問題視され、国民は一時パニック状態となりました。福祉現場でも同様、感染防止の徹底や面会の制限、行事の縮小等、その対応に苦慮し、今も息が抜けません。さらにオミクロン株が新たに出現し、先行きはまだまだ不透明です。

3 コロナワクチン接種

新型コロナウイルス感染予防、また重篤化を防ぐ目的から、5月14日～6月20日の間に入居者様・職員に対し、各施設において1人2回ワクチン接種を行ないました。ファイザー社のワクチンですが取扱を重々注意し、余らせないように接種日ごとに人数を割り振りする等、事前の準備に時間を費やし、そのかいあって事故なく無

事に延約1,440回の接種を行なうことができました。



なお、職員とケアハウス入居者様に対して副反応調査を行ない、当誌「作楽」231号にその結果を掲載しました。

4 聖火ランナーを務め

4月6日、TOKYO2020の聖火ランナーとして、デイサービス作楽荘の清川哲央(機能訓練員)が豊川市開運通で200mを走りました。昨年はオリンピックが延期となったため走れなかった夢を叶えることができました。その後、使用したトーチやユニフォームを市内の小学校や特別支援学校等に展示させていただき、体

験や想いを伝える活動をしています。



5 ウイズコロナでの行事

コロナ禍、密を避けるため、行事の中止や縮小を余儀なくさせられた2021年。しかし、秋ごろからコロナウイルスの感染拡大が小康状態になってきたため、9月20日の敬老の日に、出来る範囲で敬老祝賀会を行いました。当日は3施設の会場で開式をし、内輪での式典でしたが、理事長が各会場を回り、中身もオンラインでライブ配信をしたリ、事前に収録した和太鼓演奏を披露したりと、趣向を凝らしての式典となりました。

した。その後も運動会や文化祭の行事等も工夫して行ない、少しずつ日常に戻しています。



6 特養作楽荘大規模修繕

特別養護老人ホーム作楽荘の本館は昭和63年に竣工し、当法人では一番古い施設です。中・長期事業計画の一つとして、計画的な建物の修繕があります。その計画に基づき昨年の11月から今年の5月の工期の予定で作楽荘本館の空調・照明取替工事が執り行なわれました。しかし、コロナの影響により、今年の6月にやっと完工しました。

7 リモート研修開催

コロナの影響で昨年は多人

数で研修を行なうことが出来ませんでしたが、今年はりモート研修で多くの職員が受講できるような環境を整えました。その先駆けとして3月17・18日に新人研修会を開催。一施設から講義を配信。他の2ヶ所ではライブで受講できるようにしました。

8 介護報酬の改定

今回の改定率が+と2期連続でのプラス改定となりましたが、算定条件や廃止加算を考えると手放しには喜べません。主な中身は、感染症及び災害への対策、ICTの活用、ハラスメント対策の強化、高齢者虐待・事故防止、署名・押印の見直し、無資格者への基礎研修受講の義務付け等々。さらにケアの質が問われるようになりました。



令和四年

2022

2022年の活動を振り返る

2022年、コロナ収束の願いも虚しく、今年もコロナ感染

拡大の猛威は衰えず、対応に奔走する1年でありました。

さらに、2月にはロシアがウクライナに突然侵攻し、戦争が始まり、未だ解決の糸口が見つかっていません。日本を含む多くの国家がロシアに対し経済制裁を実施しています。が、相手がエネルギー資源国であるゆえにエネルギー確保に苦慮。国民には節電を強いることとなりました。

経済は円安が進み、10月には1ドル150円を超えました。物価は上昇し、原材料・生活用品等の値上がりが続いております。

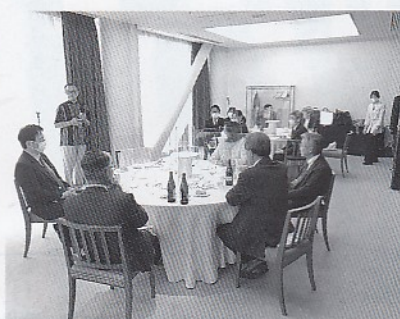
このような先行き不透明・経済不安定な状況を見極めながら臨機応変、小回りの利く事業を推進して参りました。

○定時評議員会の開催

6月15日、ホテルアークリッシュ豊橋にて、新評議員による定時評議員会が行われ、事業報告・事業決算等の議案が審議されました。

終了後に、コロナの感染対策をしっかりと行っただけ、理事・監事にも参加いただき懇親会を開催しました。久しぶりの

懇談で話も進み、今後の運営にプラスになったかと存じます。



理事長を囲んでの懇親会

○中長期的計画の推進

中長期計画の柱である法人施設の大規模修繕のため、現況を踏まえ、施行の準備を進めています。

○積極的な人事配置・異動

なかなか機能してない事業所に、評価の高いリーダーを配属、若手を投入、また人手不足で大変ではあるが、応援職員を送るなどして、人事委員会で検討し、斬新で積極的な人事を行い成果があげられました。

さらに幹部職員に女性を登用しました。

特別養護老人ホーム奇楽荘

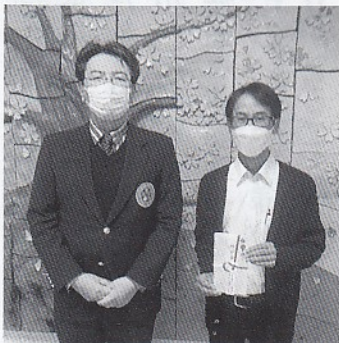
社長 相山 由里子

ケアハウス美光ハイム

ハウス長 鈴木 由加里

○職員功労者に対する功労金の授与

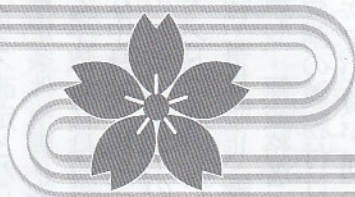
法人に多大な貢献を寄与した職員に対し、功労金を支給する旨を給与規程に新たに盛り込み、この度、11月9日に作楽荘の安藤威文相談員主任が、第1号として理事長から功労金を授与されました。



理事長と安藤相談員主任

○介護職員処遇改善支援補助金の支給

コロナ克服・新時代開拓のための経済対策として創設され、2月～9月までは補助金として受給。介護職員等の給料アップが図られました。10月以降は介護報酬に組み込まれ、引き続き賃金アップとなっています。



一誠福祉会の歌

作詞 滝川一興
作曲 榎山省吏

一、 広く遥けき 豊橋の海

ゆたかなころろ 満ちくれば

ノーマライゼーションの カあり

一誠一誠 一誠福祉会

二、 高く輝く 新城の山

あらたなころろ 明けゆけば

ノーマライゼーションの 誇りあり

一誠一誠 一誠福祉会

三、 流れ清けき ふる里の川

故人のころろ 受けゆけば

ノーマライゼーションの 誓いあり

一誠一誠 一誠福祉会

編集後記

令和5年3月15日に開催いたしました当法人の創立35周年記念式典は、皆様の厚きご支援によりまして、滞りなく終了いたしました。ここにご報告申し上げますとともに、改めて衷心より御礼申し上げます。

式典では滝川理事長が、「コロナ禍、先が見えない中、職員の皆さんの踏ん張りで35周年を迎えることができた」と感謝の言葉を述べられたことに、職員も心を打たれ、明日も頑張ろうという活力に繋がったのではないだろうか。機関誌特集号を発刊するにあたり、年度末の忙しい中、皆様から玉稿を賜り誠にありがとうございました。心温まるご協力に感謝申し上げます。

(T・A)

作業荘グループ・BVHグループ・福祉会グループ



施設概要・ブログ等を公開



環境にやさしい
植物油インキを
使用しています。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。